

Asia Indicators

発表日: 2023年5月26日(金)

台湾、外需を巡る状況は一段と悪化する展開(Asia Weekly(5/22~5/26))

～輸出受注は一段と下振れするなか、幅広く生産活動に下押し圧力が掛かる展開が続く～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel: 03-5221-4522/050-5474-7495)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
5/22(月)	(台湾)4月失業率(季調済)	3.56%	--	3.59%
	4月輸出受注(前年比)	▲18.1%	▲13.9%	▲25.7%
	(香港)4月消費者物価(前年比)	+2.1%	--	+1.7%
5/23(火)	(台湾)4月鉱工業生産(前年比)	▲22.86%	--	▲16.03%
5/24(水)	(ニュージーランド)金融政策委員会(政策金利)	5.50%	5.50%	5.25%
5/25(木)	(韓国)金融政策委員会(政策金利)	3.50%	3.50%	3.50%
	(インドネシア)金融政策委員会(7日物リバースレポ金利)	5.75%	5.75%	5.75%
5/26(金)	(マレーシア)4月消費者物価(前年比)	+3.3%	+3.3%	+3.4%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[台湾]～中国本土との緊張感に加え、世界経済の減速懸念も重なり外需を取り巻く環境は厳しさを増している～

22日に発表された4月の失業率(季調済)は3.56%となり、前月(3.59%)から0.03pt改善している。失業者数は前月比▲0.4万人と前月(同+0.2万人)から2ヶ月ぶりの減少に転じている上、中期的な基調も減少傾向で推移するなど調整の動きを強める展開が続いている。種類別では、新卒者のみならず、既卒者においても調整の動きを強めるなど幅広く改善の動きが広がっている様子がうかがえる。理由別でも、自発的失業が拡大する動きがみられる一方、非自発的失業は減少の動きを強めるなど雇用を巡るミスマッチの解消が進んでいる模様である。一方の雇用者数は前月比+2.2万人と前月(同+1.7万人)から8ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。分野別では、経済活動の正常化の進展を反映して幅広くサービス業で雇用が拡大しているほか、製造業や建設業などでも雇用に底入れの動きが確認されるなど、改善の動きが広がっている。雇用改善の動きを受けて労働力人口も前月比+1.7万人と前月(同+2.0万人)から7ヶ月連続で拡大しており、この動きを反映して労働参加率も59.24%と前月(59.23%)から+0.01pt上昇するなど、雇用を取り巻く環境は改善傾向を強めていると捉えられる。

また、同日に発表された4月の輸出受注額は前年同月比▲18.1%と8ヶ月連続で前年を下回る伸びで推移しているものの、前月(同▲25.7%)からマイナス幅は縮小している。しかし、前月比は▲2.8%と前月(同▲4.3%)から3ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強めている。国・地域別では、ASEANなどアジア新興国向けに底堅い動きがみられるものの、最大の輸出相手である中国本土向けに下押し圧力が掛かる展開が続いているほか、米国や欧州、日本な

ど先進国向けは軒並み下振れしており、世界経済の減速懸念の高まりが足かせとなっている様子が見える。財別でも、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、電気機械関連を中心に下押し圧力が掛かる動きがみられるほか、全般的に頭打ちの動きを強めている。

23日に発表された4月の鉱工業生産は前年同月比▲22.86%と11ヶ月連続で前年を下回る伸びとなり、前月（同▲16.03%）からマイナス幅も拡大している。前月比も▲5.09%と前月（同▲1.16%）から6ヶ月連続で減少しており、中期的な基調も減少傾向で推移するなど頭打ちの動きを強める展開が続いている。主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、電気機械関連、化学製品関連、縫製品や食料品などほぼすべての分野で減産の動きが広がりを見せており、米中摩擦の激化により中国本土との緊張関係が高まっていることに加え、欧米など主要国を中心とする世界経済の減速懸念の高まりも生産活動の足かせになっている。

図1 TW 雇用環境の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図2 TW 輸出受注の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図3 TW 鉱工業生産の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

【マレーシア】～生活必需品を中心に物価は落ち着きを取り戻しており、インフレ率は一段と鈍化している～

26日に発表された4月の消費者物価は前年同月比+3.3%となり、前月（同+3.4%）からわずかに伸びが鈍化している。前月比は+0.08%と前月（同+0.08%）と同じペースでの上昇が続いており、原油の国際価格の調整も追い風に統制価格が敷かれるエネルギー価格が落ち着いた推移をみせているほか、生鮮品をはじめとする食料品価格も下落するなど、生活必需品の物価が落ち着きを取り戻していることが影響している。なお、食料品とエネルギーを除いたコアインフレ率は前年同月比+3.6%とインフレ率を上回る伸びとなっているものの、前月（同+3.8%）から鈍化している。前月比は+0.00%と前月（同+0.23%）から上昇ペースが鈍化しており、エネルギー価格の安定を反映して輸送コストの上昇の

動きが一服していることを受けて財価格は落ち着いた推移をみせる一方、経済活動の正常化の進展に伴いサービス物価に押し上げ圧力が掛かるなど、物価を巡る動きはまちまちの様相をみせている。

図4 MY インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[香港]～経済活動の正常化を受けてサービス物価を中心に押し上げられるなどインフレの兆しうかがえる～

22日に発表された4月の消費者物価は前年同月比+2.1%となり、前月(同+1.7%)から伸びが加速している。前月比も+0.19%と前月(同+0.10%)から上昇ペースが加速しており、原油をはじめとするエネルギー資源価格の調整の動きを反映してエネルギー価格は落ち着いた推移が続く一方、食料品価格は3ヶ月ぶりの上昇に転じる動きをみせるなど、生活必需品を巡る物価はまちまちの状況にある。なお、香港においては2007年以降、断続的に公営住宅を対象とする賃料減免をはじめとする生活支援策が実施されており、その影響を除いたベースでも4月は前年同月比+1.8%と前月(同+1.7%)からわずかに伸びが加速している。前月比も+0.19%と前月(同+0.19%)と同じペースでの上昇が続いており、エネルギー価格の安定を受けて輸送コスト安定していることを反映して財価格は全般的に落ち着いた推移をみせる一方、経済活動の正常化の動きを受けてサービス物価に押し上げ圧力が掛かるなど、徐々にインフレ圧力が強まっている様子がうかがえる。

図5 HK インフレ率の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。